

2022 ・ 令和4年共通テスト漢文解説(本試験) 準拠『早覚え速答法』

※⁴は『早覚え』マニュアルの4ページ、185は『早覚え』の185ページ、40.4は問題文40ページの4行目を示す。

〔出典〕清の阮元(げんげん)『擘經室集(けんけいしつしゅう)』

「書き下し文」※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

※問題文の「帰さんとす」は「くんとす」と読む根拠が不明なので、「帰す」に変更した。

※詩の「留我住」「奈春何」は、いずれも二字の動詞「留住」「奈何」の間に目的語「我」「春」をはさむ構造なので、問題文と異なる読みとした。

【序文】

余(よ) 旧(もと)董思翁(とうしおう)の自ら書する扇を蔵するに、「名園」「蝶夢(ちようむ)」の句有り。辛未(しんび)の秋、異蝶の園中に来る有り。識者知りて太常仙蝶と為し、之(これ)を呼べば扇に落つ。継(ついで)復(また)之(これ)を瓜爾佳(カジカ)氏の園中に見る。客に之(これ)を呼んで匣(はこ)に入れ奉じて余の園中に帰する者有り。園に至りて之(これ)を啓(ひらく)に及べば、則ち空匣(くうきょう)なり。壬申(じんしん)の春、蝶復(また)余の園の台上に見(あら)わる。画者(ゐ)祝(いの)りて曰く、「苟(いやしく)も我に近ければ、我に当(まさ)に之(これ)を図(えが)くべし。」と。蝶 其(その)の袖に落ち、審(つまびらかに)視ること良(や)久(ひさ)しくして其(その)の形色を得(う)れば、乃(すなわ)ち従容(しょうよう)として翅(はむ)を鼓(うち)て去る。園(えん)故(もと)名無し。是(こゝ)に於(おい)て始めて思翁の詩及(およ)び蝶の意を以て之(これ)に名づく。秋半(なか)ばにして、余(よ)使を奉じて都を出(い)で、是(こゝ)の園も又(また)他人に属す。芳叢(ほうそう)を回顧すれば、真に夢の(こ)とし。

【詩】

春城の花事 小園多く 幾度(いくたび)か花を看て 幾度(いくたび)か歌う
花は我が為に開きて 我を留住(とどめ) 人は春に随(したが)いて去り 春を奈何
(いかんせん)

思翁の夢は好(よく)して 書扇を遺(のこ)し 仙蝶(せんてつ)図成りて 袖羅(しゅうら)を染
(そむ)

他日誰が家か 還(また)竹を種(う)え 輿(こし)に坐して子猷(しゅう)の過(よ)ぎる
を許すべき

〔現代語訳〕()内は訳者の補足。

【序文】

私は董其昌(とうきしょう)が詩を墨書した扇を持っていた。そこには「名園」
「蝶夢(ちょうむ)」の句があった。

嘉慶十六年の秋、変わった蝶が庭に飛んできた。よく知る者によれば「太常
仙蝶」とのこと。蝶を呼び寄せると扇に落ちた。まもなく今度はカジカ様の庭
にあらわれた。いあわせた客が、この蝶を呼び寄せて箱に入れ、わざわざ私の
庭に戻してくれた。こちらの庭に到着して箱をあけると、空箱だった。

嘉慶十七年の春、蝶がまた私の庭のテーブルにあらわれた。絵心のある者が
「もし近くに来れば、必ず描いてみせる。」と唱えると、蝶は彼の袖に落ちた。
しばらく丹念にながめて形や色が理解できると、蝶はゆるやかに羽ばたいて去
っていった。

私の庭には名前がなかったので、董其昌(とうきしょう)の詩とこの蝶の意味から
名前をつけた。

その年の秋の半(なか)ば、私は勅命を受けて出京し、この庭も他人のものとな
った。群れ咲く花々を思い出すと、まさに夢のようだ。

【詩】

春めく街の花のころ。小園多く、何度花を見て何度歌うことか？

花は私のために咲いて私を引き留め、人は春とともに去り、去りゆく春を止められない。

思翁のすばらしい夢は墨書の扇を遺(のこ)し、仙蝶の図は完成して薄絹の袖を染める。

将来この庭に竹を植え、子猷(のような文人)が輿(こし)に乗って通り過ぎるのを眺める。それはどの家の人だろうか？

※訳注

春を奈何(いかんせん)―直訳…春(が去るの)をどうしようか。どうしようもない。

筆者の主張をつかむ¹⁷⁴

ステップ1―最初の2行を読む

問題文の最初の1行はそれぞれ次のとおり。※理解のため、歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更し、一部の漢字はひらがなとした。

序文

余(よ) 旧(もと)董思翁(とうしおう)の自ら書する扇を蔵するに、「名園」「蝶(ちようむ)」の句有り。

詩

春城の花事 小園多く 幾度(いくたび)か花を看(み)て 幾度(いくたび)か

ステップ2―最後の3行を読む

説明・注で正解つかめ¹⁷⁶

により序文の最後の2行と詩の最後の1行を、(注)8で補うと次のとおり。

序文

去る。園(えん)故(もと)名無し。是(こゝ)に於(おい)て始めて思翁の詩及(およ)び蝶の意を以て之(これ)に名づく。秋半(なかば)にして、余(よ)使(つか)を奉じて都を出(い)で、是(こゝ)の園も又(また)他人に属す。芳叢(ほうそう)を回顧すれば、真に夢の(こ)とし。

詩

他日(たじ)誰(た)が家か 還(また)竹を種(う)え 輿(こし)に坐して 子猷(しゆ)の過(よ)ぎるを許すべき

ステップ3——最後の問7の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉を探すと、次のように「内が同じだ。

ステップ1 「園・蝶」

ステップ2 「他人」「回顧する」「夢のごとし」

ステップ3

① 「園・蝶」「他人」

② 「園・蝶」「夢」

③ 「園・蝶」「夢」

④ 「園・蝶」「夢」

⑤ 「園・蝶」「思い出している」「回顧する」「懐(なご)かしく」「思い出すと夢のようだ」

正解候補は合致点が最も多い⑤であり、筆者の主張の一部は、「是(こゝ)の園」を思い出すと、本当に夢のようだ」だろう。これで十分。これが大事。ここで

退却ルール^三 三分以内に主張をつかむ作業をやめて最初にもどる

を実行し、あとは、「思い出すと夢のようだ」を念頭において読んでいく。

問1(ア)〔熟〕

「復」について、「熟語による翻訳」E10により「復」を含んで上下同じような意味の熟語は「回復」だろう。すると「回||復」↓「回(まわ)る↓もう一度同じ所に来る↓④ふたたび」が正解。

問2〔注〕

傍線部「呼之」は2行目から判断すると「呼^{ヨウ}レ之^{コレヲ}」と読み、「之」は「蝶」だろう。次に、

説明・注で正解つかめ！-176

によって注4を使うと、傍線部の直後は「園に到着してこれを開くと空箱だった。」なので、

・傍線部の「入匣」は、蝶を「入^{イル}レ匣^{ハコニ}」

・傍線部の「帰余園」は「帰^ニ余園^ニ」

と読むはずだ。これらの条件を満たす④を確認すると次のとおり。

これ(蝶)を…匣(はこ)に入れ…園に帰さんとする者あり④

しかし

園に到着して匣(はこ)を開くと空箱だった。

話のつじつまが合うので④の正解が確定。

問3〔仮定〕

「苟」は「苟(いやしく)も…ば」という仮定E13だ。したがって、「⑤もし…ば」が正解。

問1(イ)〔熟〕

「審」について、「熟語による翻訳」¹¹⁰により「審」を含む熟語で、まず思い浮かぶのは「審判」だろう。しかし「審判」という熟語は上下同じ意味ではない。

「審判」から推定される正解候補は、「①正しく判断する」だろうがヒツカケではないか？「正見(しょうけん)…正しく見る」という仏教用語もあるが、仏教思想は漢詩文の範疇(はんちゅう)ではないので、漢文の試験でも出題されない。直後の文とつなげると「①正しく見ることややひさしくして」であり、少し変だ。

「ひさしくして」長い間」なのだから、残りの選択肢で確認すると「②詳しく見ることややひさしくして」が最も妥当なので、恐る恐る正解とする。

なお、「審(つまびらかに)す」と読むが、たとえ読めても「つまびらかにす」の意味まで知る受験生は僅少なので、気にする必要はない。

また、「審」の熟語については「審視」が上下ほぼ同じ意味の熟語だが、日本では使われない。

問1(ウ)〔熟〕

「得」について、「熟語による翻訳」¹¹⁰により「得」を含んで上下同じ意味の熟語は「獲得」。あとは「画者が…蝶…の…形色を得た」¹¹¹のだから、次のようにして正解④に至る。

得→獲得

←
⑤捕獲(ヒツカケ)

④把握(「獲得する」という熟語訳を言い換えてシヨクンの目をゴマカス)¹¹⁴

問4〔3〕〔漢〕

偶数句の母音とそろそろ！¹¹⁸によると、偶数句末は「何ka、羅la、過ka」なの

で、母音は^aであり、正解候補は①座^{za}と③歌^{ka}。八句は律詩¹⁸¹なので、正解は③。

なお、頷聯(がんれん)は三・四句、頸聯(けいれん)は五・六句のこと。受験では不要。

問5〔ンヤ〕

「奈く何」は「くをいかんせん。」と読む反語⁹⁹なので、正解は⑤

問6〔注〕

説明・注で正解つかめ¹⁷⁶

により、蝶の出現日時は次のとおり。

- ・一八一一年注²の秋、異蝶の園中に来たる有り
- ・扇に落つ
- ・継いで…之(これ)をカジカ氏注³の園中に見る
- ・一八一二年注⁵の春、蝶…余(阮元)の園の台上に見(あらわる)
- ・蝶 其(その)袖に落ち

正解は傍線部の順の⑤。

問7〔主張〕

ここまで通読して特に問題がないので、最初につかんだ正解候補の⑤で確定。

以上